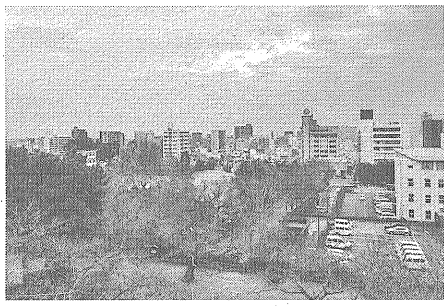


西部版

地域の催しは 浜松支局へ

浜松市は、休館中の市教育文化会館(浜松市中央区、はまホール)の後継施設として建設を計画する新市民文化創造拠点施設について、庁内横断的な組織を設置し、2017年度内に基本的なスケジュールをまとめる方針を示した。市議会11月定例会で鈴木康友市長が答弁した。

年度内に工程まとめる 浜松市 新市民文化創造拠点施設



浜松城公園東側エリア

新拠点は、浜松城公園(浜松市中央区、東側エリア)に建設する。浜松城公園長期整備構想の一に「交流ゾーン」であり、ホールや創作活動スペースなどを備えた複合施設を整備する考え。鈴木市長は、新拠点の整備が10年以上の長期にわたると想定されることから、18年度に浜松城公園に隣接する旧元城小学校校舎の解体に着手し、解体終了後に埋蔵文化財発掘調査を実施。結果を市の方針の枠内であることを強調した。

浜松市・今週の制限付き発注

浜松市は、三方原都田線他区画線設置や浜名湖周遊自転車道線他矢羽根設置など5件を、制限付き一般競争入札で今週発注する。2018年1月18日入札

【北土木整備事務所】 12月21日入札 12月21日入札 12月21日入札

駅北整備へ 方向性提示 菊川市が構想公表

菊川市は、駅北地域の可能性を生かしたまちづくりを進めるため、基本的な方向性の第一歩となる「菊川駅北整備構想」を策定し公表した。駅北地域の現状分析や方向性の整理、将来像、基本方針、ゾーニングの策定について、今後の進め方などを盛り込んだ。

「就業の場を創出し、多くの人でにぎわう地域経済を支えるまち」「駅北の交通利便性を生かして歩行者が安全に行き交うまち」の三つを基本方針とした。対象は、JR菊川駅北側から東海道新幹線までの約2000坪。現状は大部分が茶畑や山林。構想では、将来像として「菊川市の新たなにぎわい生活拠点」にぎわう駅前と選ばれる生活の場「一」を掲げた。地域づくりは「利便性の高い環境づくりにより若い子育て世代が多く住むまち」

1月に工事発注 三方原用水の三幸調整池

農林水産省関東農政局は、三方原用水二期農業水利事業として三幸調整池の築造を計画しており、工事を2018年1月に制限付き一般競争入札で発注する。発注規模は3億円以上7.4億円未満。関東農政局が発注する。

三幸調整池の計画規模は、鉄筋コンクリート造で容積約8500立方メートル。生コンクリート200立方メートルと鉄筋約200トンを使用する予定。施工場所は浜松市北区三幸町の都田バイパス西側。現況は畑として利用している。実施設計その1は三幸コンサルタンツ(名古屋市中区)、発注に向けた実施設計や積算参考資料作成などは若鈴コンサルタンツ(名古屋市中区)が担当する。

菊川市の11月補正案 小笠地域 再編準備費に977万

菊川市は、2017年度11月補正予算案を公表した。補正額は8830万円。補正後の一般会計は184億2800万円となる。市単独小学校施設整備事業費は、830万円を

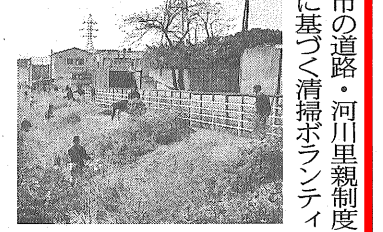
増額。加茂小学校(加茂5114)4階の音楽準備室と、隣接する児童会室の壁を撤去し、35人を収容できる約60平方メートルの普通教室を整備する。設計を委託する方針。この他、社会資本整備総合交付金事業市道大須賀金谷線では、用地費・補償費を1533万円、国庫補助小学校施設整備事業費を1897万円減額した。小笠東小学校と六郷小学校の耐震補強計画策定と内田小学校・小笠北小学校の耐震補強実施設計の事業費確定による減額。

ゾーニングでは、駅北口と自由通路を最も重要な施設と位置付けた他、市民にとって不足している施設の集約、防災機能を備えた公園の配置、一戸建て住宅を中心とした大規模住宅開発の誘導などを盛り込んでいる。市では今後、整備手順と概算事業費、それに伴う効果を検証。構想の実現性について検討を進めていく方針としている。

地域貢献

丸塚排水路を社員78人で清掃

フジヤマ(浜松市中区、藤山義修社長)は、浜松市の道路・河川里親制度に基づき清掃ボランティア活動を行った。丸塚排水路で行った。社員78人が参加し、排水路西側の斜面に生えている雑草を300以上にわたり刈り取った。CSR活動の一環で2004年から開始。年3回活動を行っている。



同日は、花壇の撤去や草木の伐採、サッカーボールやフェンスの塗装塗り替え、区画線の設置などを行った。西島組合長は「児童や生徒が建設業に興味を持つ機会になればうれしい」と話す。同組合は、2008年度に御前崎市学校支援地域本部事業の学校支援ボランティアに登録。毎年市内の幼稚園や小中学校でボランティア活動を行っている。

小中学校7カ所で ボランティア活動 御前崎市建設業組合 御前崎市建設業組合(西島正浩組合長)は11月24日、御前崎小学校など市内7カ所の小中学校でボランティア活動を行った。写真。組合員18人が参加した。



当日は社員ら13人が参加し、佐鳴湖東岸の小敷地区約2800平方メートルを対象に、草刈りやゴミ拾い、湿地の自然環境保全などの作業を行った。同社は2007年に佐鳴湖公園の基本計画業務を受託したことをきっかけに、静岡県のリバーフレンドシップ制度や浜松市の道路・河川里親制度に参加。以降年3回のボランティアによる清掃活動に、通算約480人が参加している。

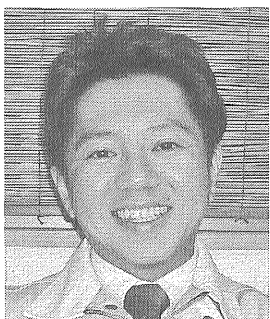
佐鳴湖岸で清掃 中部総合コンサルタンツ(浜松市中区、豊田哲也社長)の河川愛護会(今井裕之会長)は、浜松市中区の佐鳴湖で第30回の湖岸清掃活動「写真」を行った。



当日は社員ら13人が参加し、佐鳴湖東岸の小敷地区約2800平方メートルを対象に、草刈りやゴミ拾い、湿地の自然環境保全などの作業を行った。同社は2007年に佐鳴湖公園の基本計画業務を受託したことをきっかけに、静岡県のリバーフレンドシップ制度や浜松市の道路・河川里親制度に参加。以降年3回のボランティアによる清掃活動に、通算約480人が参加している。

FACE フェイス

エムエスケイ(浜松市西区)社長に就任した 橋本 茂昌(はしもと・しげまさ)さん



社員の子どもが入社したいと思う会社に

産業廃棄物の収集運搬・営業など社内全ての業務を経験し今年4月に社長に就任。「社員の子どもが入社したいと思う会社」が理想の会社像だ。「親が家庭で悪口を言う会社に子どもは入社しない。笑顔で仕事ができる会社をつくるため、社員全員と意見を交わし自分の考えも伝えた。耳をふさぎたく

総会

校友会が生徒と学校の懸け橋に

東海工業専門学校校友会浜松支部など友会浜松支部など電波学園(名古屋市中区、小川明治理事長)が運営する東海工業専門学校校友会浜松支部と、名古屋



工学院専門学校校友会静岡支部が11月25日、浜松市中央区で合同総会と懇親会を開催した。冒頭、町田米男浜松支部長は「写真は「校友会が生徒と学校の懸け橋になれば」とあいさつした。総会では2016年度事業・収支決算について報告し、17年度事業計画・収支予算案を採択した。また、在校生の内定報告なども行った。会には建築、土木、測量、電気、機械など各業界に就く卒業生や、浜松出身の在校生、学校関係者ら約100人が参加し、親睦を深めていた。